

### 事項五 青島開城及軍政施行一件

五二二 十一月八日 長谷川參謀總長ヨリ  
加藤外務大臣宛

青島開城規約締結ノ件

附記一 十一月七日附青島開城規約

二 同 青島開城規約附録

三 同 開城実施手續規定

參一 第五十号

我全権委員陸軍少將山梨半造並海軍少佐高橋壽太郎ハ敵ノ全権委員「ザックセル」大佐トノ間ニ十一月七日午後七時五十分ヲ以テ開城規約ヲ締結シ敵ハ全部我要求ヲ容レタリ右規約ニ基キ要塞其他ノ接受ニ関スル委員ハ九日午前十時ヨリ会合シ其実施ハ十日午前十時ノ予定ナリ

(附記一)

青島開城規約(大正三年十一月七日)

第一条 青島要塞及膠州湾内外ニ在ル独逸国陸海軍軍人、

義勇兵並陸海軍ニ属スル官吏ハ総テ俘虜トス

第二条 青島要塞及膠州湾内外ニ在ル全堡塁砲台軍旗、兵

第五条 青島ニ在ル独逸国ノ陸海軍ノ衛生部員ニシテ病傷者及俘虜ノ救護ノ為メ日本軍ニ於テ必要ト認ムル者ハ某時期間残留シテ日本軍ノ衛生部員ノ指揮ノ下ニ勤務ニ服スヘシ

第六条 陸海軍ニ属セサル官吏人民ノ処置普通行政事務會計並之ニ関スル書類ノ引継キ其他本規約執行ニ関スル細則ハ本規約附録ニ於テ之ヲ規定ス  
右附録ハ本規約ト同一ノ効力ヲ有ス

第七条 本規約及同附録ハ青島要塞及膠州湾内外ニ在ル壕洪国陸海軍ニモ亦之ヲ適用スルモノトス

第八条 本規約ハ日独兩軍ノ全権委員ニ於テ署名スヘク其署名ノ時ヨリ直ニ効力ヲ生スヘキモノトス

本規約ハ正本二通ヲ作製シ日独兩軍各其一通ヲ保有ス  
大正三年(千九百十四年)十一月七日「モルトケバ  
ラック」ニ於テ

(附記二)

青島開城規約附録(大正三年十一月七日)

第一条 本規約ヲ実行スル為メ日独兩軍ニ於テ左ノ委員ヲ設置ス

五 青島開城及軍政施行一件 五二二

器、彈藥官有諸建築物、馬匹、交通信用諸物件、築港、繫船所、水面利用ニ関スル諸建築物其他一切ノ軍用器材、圖書、給養諸品、官有財産並独逸国艦船艇及之ニ属スル諸物件ハ現状ノ儘現在ノ位置ニ整備シ日本軍ニ引渡スモノトス

第三条 独逸国陸海軍其他青島在任者ニシテ開城談判開始後ニ於テ談判開始當時ニ現在セル第二条ニ掲クル諸物件ヲ破壊シ又ハ日本軍ニ有害ナル結果ヲ与フルノ行為ヲ為シ或ハ其他ノ方法ニ於テ現状ヲ變更スト認ムルトキハ日本軍ハ談判ヲ中止シ又ハ本規約ヲ破棄シテ自由ノ行動ヲ取ルヘシ

第四条 独逸国陸海軍軍人義勇兵並陸海軍ニ属スル官吏ハ武装ヲ解除シ各其制服ヲ着用シ所要ノ私有物件ヲ携ヘ將校ノ指揮ノ下ニ日本軍ノ指示スル集合地ニ到ルヘシ  
但將校ニハ各人ニ一名宛ノ從卒ヲ隨行セシムルコトヲ許ス此手續ノ詳細ニ関シテハ日本軍ノ委員ニ於テ之ヲ指示ス

一、軍事委員(黄色ノ臂章ヲ佩フ)

堡塁砲台軍旗馬匹交通信用物件陸上ニ在ル兵器彈藥軍用器材圖書ニ関スル授受ニ任ス

二、海軍委員(青色ノ臂章ヲ佩フ)

艦船艇(海上ニ於ケル諸物件ヲ含ム)ノ授受ニ任ス

三、經理委員(萌黄色ノ臂章ヲ佩フ)

給養諸物件及官有財産(軍事委員ニ属スルモノヲ除ク)等ニ関スル授受ニ任ス

四、危險物除去委員(鳶色ノ臂章ヲ佩フ)

青島要塞内外水陸ニ於ケル地雷水雷其他ノ危險物ノ除去ニ任ス

五、俘虜委員(赤色ノ臂章ヲ佩フ)

俘虜ノ授受ニ任ス

六、行政委員(白色ノ臂章ヲ佩フ)

膠州湾全般ノ行政及會計並之ニ関スル一切ノ圖書ノ授受ニ任ス

七、衛生委員(薄萌黄色ノ臂章ヲ佩フ)

在青島傷病者ノ授受及救護ニ任ス

第二条 前条ノ諸委員ハ十一月十日午前十時「ビスマルク」兵營ニ集合シ独逸軍委員ハ左記諸名簿表及圖ヲ調製

シ之ヲ当該日本委員ニ交付シ其担任事項ノ遂行ニ着手ス  
ルモノトス

一、独逸軍軍事委員

青島要塞配置及堡壘砲台圖並第一条第一号ニ属スル物  
件表

二、独逸軍海事委員

在膠州灣艦船艇名簿其乗組人員表及沈没艦船艇ノ位置  
圖

三、独逸軍經理委員

官有土地諸建築物配置圖官有財産及給養諸物件現在表

四、危険物除去委員

地雷水雷(防材)其他危険物布設圖

五、俘虜委員

在青島陸海軍編制表、陸海軍將校官職等級氏名簿軍隊  
名簿、艦船艇乗組員名簿

六、行政委員

在青島文官官職等級氏名簿男女国籍及職業ニ依り分類  
スル普通人民ノ人口表在監者人員表

七、衛生委員

陸海軍、兵種階級及病院、病院船ニ依り分類スル在青  
島傷病者現員表官有衛生材料現在表

スル者ハ日本軍ニ於テ相当ノ便宜ヲ与フヘシ

第八条 本附録第一条第六号ニ示ス独逸国委員ハ行政並會

計ニ関スル既往及現在ノ状況ヲ日本委員ニ告知シ且ツ之

ニ関スル一切ノ図書ヲ同委員ニ引渡スヘシ

第九条 青島ニ在ル独逸国陸海軍ノ傷病者及殘留衛生部員

並日本軍ノ俘虜ハ十一月十日現在ノ位置ニ於テ傷病者ニ

関スル日本軍ノ委員ニ引渡スヘシ

正本二通ヲ作り各全権委員ニ於テ署名ス

大正三年(千九百十四年)十一月七日「モルトケバ

ラック」ニ於テ

(附記三)

開城実施手続規定(大正三年十一月七日)

一、本規約実施ニ要スル委員ノ編成左ノ如シ

一、軍事委員

委員長 渡辺少將

委員 河田參謀、大村副官、猪狩副官、攻城

砲兵司令部部員一、同副官一、歩兵將

校二、砲兵將校八、工兵將校八、(交

通部隊將校ヲ含ム)海軍將校三、獸医

第三条 本規約第二条ニ掲クル諸物件ノ引渡ヲ執行スル為  
メ其所在地ニ將校、下士卒若クハ其他ノ適當ナル人員若  
干ヲ残置スヘシ該人員ニハ第一条ニ定メタル臂章ヲ佩用  
セシム

第四条 青島要塞内ニ在ル独逸国陸海軍軍人及義勇兵ハ日  
本軍ノ指定スル順序ニ依り集團シテ退去シ十一月十日午  
後三時台東鎮南端ニ集合シ俘虜委員ノ指揮ヲ受クヘシ  
但二日分ノ糧食ヲ携行スルヲ要ス

第五条 独逸国陸海軍軍人義勇兵及陸海軍ニ属スル官吏ニ  
シテ十一月八日午前六時以後ニ於テ尚兵器ヲ携帶シ又ハ  
傷病者ニ非スシテ前条ニ指定セラレタル集合場ニ到ルコ  
トヲ肯セサル者ハ日本軍ニ於テ適宜処分ス

第六条 本規約第四条ニ依り携行スル私有物件ハ必要ト認  
ムル場合ニ於テ之ヲ検査ス

第七条 陸海軍ニ属セサル官吏及人民ハ其堵ニ安スヘシ  
但日本軍ニ於テ其退去ヲ必要ト認ムル者ニハ退去セシム  
日本軍ノ命令ニ依リ又ハ任意ニ青島ヨリ退去スル者ハ各  
自ノ財産ヲ自由ニ処分シ及携行スルコトヲ得但退去ノ時  
日及通路ハ日本軍之ヲ指定ス  
軍人義勇兵及陸海軍所属官吏ノ家族ニシテ退去セント欲

部長、獸医二、主計一

二、海事委員

委員長 正木海軍中佐

委員 高橋參謀、海軍將校及同相当官三

三、經理委員

委員長 山田少將

委員 北村參謀、萩原參謀、旅団副官一、歩

砲工、輜重兵科將校各一、師團經理部

長、主計五、及軍医三、海軍將校同相

当官四

四、危険物除去委員

委員長 堀内少將

委員 高橋參謀、大村副官、旅団副官一、砲

兵將校二、工兵將校八、(内工兵大隊

長一ヲ含ム)海軍將校三

五、俘虜委員

委員長 浄法寺少將

委員 香雅參謀、平松副官、山田大尉、旅団

副官一、歩兵將校一五、乘馬將校五、

主計三、軍医五

六、行政委員

委員長 山梨參謀長

委員 磯村參謀、黒沢參謀、林副官、飯田副官、軍医部長、軍医五、(藥劑官ヲ含ム)

憲兵長、憲兵將校一、理事二、主計一、海軍將校同相當官二、公法顧問

七、衛生委員

委員長 磯村大佐

委員 師團軍医部長、安田副官、主計二、軍医十(藥劑官ヲ含ム)

八、委員附屬

各委員ニハ必要ニ依リ准士官下士判任文官兵卒及通訳若干ヲ附ス

二、各委員ノ業務実施上守備監視ニ要スル兵力ハ歩兵第四十八聯隊第二大隊ヨリ出スモノトス但特種兵力ヲ要スルモノハ師團司令部ニ請求スルモノトス

三、軍事委員、海事委員、經理委員ハ本件ニ関スル独逸國委員ト協議シ其輕重ヲ計リ適當ノ順序ニ依リ受領スヘシ但海事委員ハ開城規約ニ規定スル艦船艇ノ外ニ正式捕獲ヲ要スルモノアル時ハ船舶捕獲ノ手續ヲナス

五二三 十一月十日 陸軍省公表

青島要塞陥落ニ至ル迄ノ經過ニ関シ公表ノ件

陸軍省公表

十一月六日朝来天候快晴ニシテ夜ニ入り月特ニ明カナリ師團ハ此夜ヲ期シ敵堡壘ニ近ク第三攻撃陣地ヲ占領スルノ予定ナリシモ第一線諸隊ノ一部ハ昼間既ニ該陣地ヲ占領シ且突撃準備ノ工事ニ着手セリ午後四時師團長ハ更ニ諸隊ニ命スルニ突撃準備工事ヲ続行スヘク且其ノ突撃實施ハ更ニ命令ヲ待ツ可キヲ以テセリ然ルニ敵ハ此日海正面ニ在ル台西鎮砲台ヲ自ラ爆破セシノミナラス其ノ飛行機ハ遠ク西方ニ飛行シテ再ヒ帰來スルノ模様ナク又日没以後敵ノ防禦線ハ極メテ靜肅トナリ其ノ砲撃モ亦全ク中止スルニ至リシヲ以テ我諸隊ハ敵ノ防禦情態ニ一變化ヲ生シタルモノナルコトヲ判断セシニ果然中央堡壘ニ向ヒシ我第二中央隊ノ左翼部隊ハ敵ノ抵抗ヲ受クルコトナク同堡壘第一外壕ノ外岸及鉄条網ヲ破壊シ続テ第二外壕斜堤上竝同壕内ノ鉄条網ヲモ破壊シ茲ニ突撃路ヲ成形スルヲ得ルニ至レリ

是ニ於テ師團長ハ直ニ第二中央隊ニ命スルニ中央堡壘ノ奪略ヲ努ムヘキコトヲ以テシ同時ニ爾余ノ諸隊ヲシテ各當面ノ敵ニ對シ嚴密ナル偵察ヲ行フヘク命令セリ然ルニ中央

四、危險物除去委員ハ水陸二班ニ分レ作業ヲ施行スヘシ

陸上危險物除去ニ要スル兵員ハ工兵隊ヨリ出シ水中危險物除去ニ関シテハ海軍重砲隊ヨリ出セル人員器具等ヲ以テ一部ノ清掃及航路ノ保安ヲ計ルモノトス

五、俘虜委員ハ海泊川以北ニ在ル諸村落ニ俘虜ヲ收容スヘシ又之カ監視ニ要スル兵員ハ歩兵第二十九旅團ノモノヲ使用シ又給養ニ関シテハ師團經理部長ト協議スヘシ俘虜後送ニ関シテハ臨時之ヲ指定ス

六、行政委員ハ本件ニ関スル独逸國委員ト協議シ青島要塞内ニ居住スル独逸國及諸外國人ノ身分及職業別、官有、民有ノ動産不動産ニ関スル図書類、行政及會計ニ関スル書類、官衙等ヲ受領シ其他物件ノ調査、押収、風紀ノ維持、寺院ノ保護、婦女老幼ノ取扱等軍事以外一切ノ事項ヲ処理スヘシ

七、衛生委員ハ本件ニ関スル独逸國委員ト協議シ逐次病院及病院船ヲ臨檢シ救護ノ方法ヲ講スヘシ之カヲ為メ衛生隊、野戰病院ノ人員尚要スレハ独逸國衛生委員ヲ指揮スヘシ

保壘以外ノ敵ハ依然陣地ヲ守備シ在リテ我企圖ニ對シ光彈ノ発射機関銃ノ射撃ヲ以テ活潑ナル抵抗ヲ開始セリ

七日午前一時三十分第二中央隊ノ中央堡壘突撃部隊ハ其歩兵二中隊工兵一分隊ヲ以テ突撃ヲ決行シ堡壘ノ咽喉部ニ至ルマテ確實ニ之ヲ占領シ且ツ敵兵約二百ヲ捕虜トセリ然ルニ中央堡壘ノ我手ニ歸スルヤ從來沈黙ヲ守リシ敵ノ諸砲台ハ俄然一斉ニ砲火ヲ開キ其射彈ハ尺ク中央堡壘ニ集注セラレ為ニ同堡壘ヲ占領スル我部隊ハ須臾ニシテ数十名ノ傷者ヲ出セリ而モ之ニ屈セス遂ニ能ク其占領ヲ確保セリ第二中央隊長ハ此情況ニ於テ直ニ台東鎮堡壘ニ對シ突撃ヲ決行スルヲ有利ト判断シ且ツ其成效ヲ確信セリ師團長ハ之ヲ知ルヤ午前四時十五分直ニ突撃ノ命令ヲ下セリ是ニ於テ第二中央隊ハ午前四時三十分其右翼部隊ヲシテ台東鎮堡壘ニ向ヒ突撃ヲ決行セシム

此突撃ハ敵ノ頑強ナル抵抗ヲ受ケ雨注セル射彈ニ浴シ百余名ノ死傷ヲ出シタルモ毫モ屈撓スルコトナク遂ニ午前五時十分ヲ以テ確實ニ同堡壘ヲ奪取スルヲ得タリ第二中央隊長ハ続テ敵ノ後方諸砲台ヲ占領スルニ決シ師團長ノ認可ヲ得直ニ各一部隊ヲ以テ「モルトケ」、「ビスマルク」及「イルチス」ニ對シ急進セシム是等諸隊ハ敵ノ銃砲火ヲ冒シ勇敢

ナル前進ヲ繼續シ午前三時三十分「イルチス」山麓ニ達スルヲ得タリ是ヨリ先キ小堪山北堡壘ニ向ヒシ左翼隊ノ右翼部隊ハ六日夜ヲ以テ同堡壘ノ外壕ヲ爆破スル予定ナリシモ土地岩石質ニシテ準備工事進捗セサリシカ中央隊方面ノ戦況發展セルヲ以テ断然突撃ヲ決行シ午前五時十分遂ニ同堡壘ヲ奪略シ更ニ其一部ヲ以テ敵ノ銃砲火ヲ冒シツツ「イルチス」東砲台ニ向ヒ奮進セシメタリ

此ノ如クシテ午前六時十五分ヨリ同二十分ニ亘ル間ニ於テ「イルチス」山一帯ノ高地ハ第二中央隊及左翼隊ノ先進部隊ノ手ニ帰シ又「ビスマルク」山一帯ノ高地ハ第二中央隊先進部隊ノ占領スル所トナリ敵ノ要塞ハ全ク其中央部ヲ突破セラレ左右分断スルニ至レリ

此時尚ホ敵ノ最右翼タル小堪山堡壘ハ頑強ナル抵抗ヲ持續セシモ我左翼隊ノ左翼部隊ハ猛烈ニ之ヲ攻撃シ遂ニ午前六時四十五分ノヲ奪略セリ

我右翼隊ノ攻撃目標タル敵ノ最右翼海岸堡壘ハ其抵抗最モ頑強ニシテ我カ為ニ第一外壕ノ鉄条網ヲ破壊セラレタルニ拘ハラス後方諸砲台ヨリスル熾盛ナル砲火ト相俟ツテ抵抗ヲ持續シ我工兵隊カ挺進シテ其咽喉部ノ火藥庫ヲ爆破スルニ至ルモ尚ホ防戦ヲ中止セス是ニ於テ我突撃部隊ハ午前

北方標高六五附近ヨリ「ビスマルク」山「イルチス」山ヲ經テ堪山西南方標高二五、五附近ニ亘ル線ヨリ以西ニ進出スルコトヲ禁止シ諸隊ハ之ニ基キ示サレタル線ニ止マリテ隊伍ヲ整ヘ慘烈ナル市街戦ノ發生ヲ見ルコトナクシテ全ク戦鬪行為ヲ終結スルニ至レリ

青島ニ対スル攻囲開始以來今朝同要塞ノ陥落ニ至ル迄我艦隊ハ絶ヘス敵ノ堡壘砲台ニ向テ有効ナル砲撃ヲ続行シ志氣上竝ニ物質上師団ノ攻撃ニ多大ノ援助ヲ与ヘタリ

## 五二四 十一月十日 陸軍省案

青島ノ占領及軍政ニ関スル件

### 附記一 外務省修正案

- 一 青島ニ於ケル海軍施設
- 二 青島ニ於ケル軍政竝之ニ関連シテ講究ヲ要スル事項(外務省)

### 青島ノ占領及軍政

- 一、青島及之ニ属スル堡壘砲台兵器材料官公私有物件官衙公署並書類等ハ彼我委員ヲ定メ十一月十日ヨリ其ノ受授ヲ為ス結了迄ハ数日ヲ要ス

六時三十分突撃準備ノ位置ヲ占メ午前七時將ニ突撃ヲ決行セントスルノ剎那敵兵遂ニ降伏セリ  
右翼隊ニ隣接セル第二中央隊タル英國軍モ夜來攻撃ヲ準備シアリシカ同軍ノ工事援助ニ任シ在リシ我工兵小隊ハ午前六時三十分先ツ台東鎮堡壘ヲ奪略シ続テ英國軍兩大隊モ亦攻撃前進ヲ起シ敵陣地ニ突入セリ又工兵小隊ハ引キ続キ猛進シテ「モルトケ」高地ヲ占領セリ

我攻城重砲兵野砲兵及海軍重砲兵ハ数日来猛烈且有効ナル砲撃ヲ繼續シアリシカ此夜亦敵ノ諸砲台及後市地区ヲ猛射シ我歩工兵ノ突撃ニ有力ナル援助ヲ与ヘ天明後ニ至リ尚盛シニ砲撃ヲ続行シテ攻撃ノ成果ヲ一層確實ナラシメタリ  
我航空隊ハ払曉以來悪気流ヲ冒シテ飛行偵察ヲ試ミ「モルトケ」「ビスマルク」ノ線ニハ敵ノ第二防禦線ヲシキモノヲ認メサルコト竝敵砲台中ニハ応戦ヲ中止シ自ラ爆破スルモノアルコト等ヲ確認シ適時適切ナル報告ヲ呈セリ

以上ノ經過ニ依リ十一月七日午前七時ヨリ同七時半ニ亘ル間ニ於テ青島要塞ハ全ク陥落シ天文台上高ク白旗ヲ掲ケラルルヲ見タリ続テ敵ノ軍使ハ青島市街東北端ニ現出シ午前九時二十分我軍使ニ對シ開城ノ申込ヲ為セリ  
此ニ於テ師団長ハ諸隊ニ命令ヲ下シ諸隊ノ「モルトケ」西

二、青島領収ノ上ハ当分独立第十八師団司令部(將來臨時

青島占領軍司令部)ヲシテ占領地ノ守備、統治並山東鐵道ノ管理經營ヲ掌ラシム

三、鐵道聯隊ニ所要ノ鐵道職員ヲ附シ山東鐵道ノ經營ニ当ラシム

四、獨立第十八師団司令部(獨立第十八師団凱旋後ハ臨時青島守備軍司令部)ノ下ニ軍政署二箇(青島區及李村區)ヲ置キ租借地ノ軍政ヲ掌ラシム

五、獨立第十八師団司令部(同司令部凱旋後ハ臨時青島守備軍司令部)ニ憲兵ヲ增加シ地方警察ノ業務ヲ兼ネシム  
其ノ他軍司令部ニハ司法、經理、醫務、郵政ニ関スル諸機關アリ

六、支那税関ト交渉ノ為税関吏ヲ司令部ニ附シ従来ノ方法ニ依リ稅務ヲ監督セシム

七、青島市ノ電燈、水道等ハ応急ノ工事ヲ施シテ之ヲ使用セシムル為必要ノ人員ヲ派遣シアリ

八、青島ハ市内ノ整理及海灣ノ掃海了ルヲ俟テ一般人民ノ入市ヲ許ス

九、獨立第十八師団凱旋ノ後ハ左ノ諸部隊ヲ殘置シ守備其他ノ業務ヲ繼續セシム

臨時青島守備軍司令部

步兵一旅團

騎兵一中隊

野砲兵一大隊

重砲兵一大隊

工兵一中隊

鐵道聯隊

電信隊一箇

兵器廠一箇

陸軍病院一箇

軍政署二箇

十、港務竝敵艦船等ノ處理ハ海軍ニ於テ之ヲ区署スル筈ナリ

〔欄外註記〕  
「大正三年十一月十日閣議ノ席上ハ大島陸軍次官持參」

〔附記一〕

外務省修正案

別紙六ヲ左記ノ通り改ムルコト

一、青島支那税関ハ日本人ニ於テ從來ノ方法ニ依リ之ヲ管理經營シ司令部ノ監督ニ屬セシム

許可ヲ得タルモノノ外一切ノ船舶ノ出入ヲ禁ス

六、臨時青島要港部司令官ハ必要ナル軍律ヲ施行ス

七、臨時軍法會議ヲ設置ス

〔附記三〕

青島ニ於ケル軍政竝之ニ關聯シテ講究ヲ要スル

事項

（政務局第一課 矢田書記官調査）

一、占領地タル租借地一般内外人ノ交通許可

外人ノ入市ニ關シテハ次ノ問題ヲ生ス可シ

(イ) 支那ニ對シ治外法權ヲ有スル外人ノ犯罪ハ如何ニ処

分ス可キカ即チ軍政裁判ニテ判決執行ス可キカ

(ロ) 外人ノ保護其他ノ為外國領事ノ在勤ヲ許ス可キカ

(ハ) 若シ外國領事ノ在勤ヲ許ストセハ其特權ハ如何

(ニ) 外人及外國領事入市許可ノ時期

(ホ) 外人及外國領事入市許可ト日本人入市許可ト許可ノ時期ニ於テ區別ス可キヤ否ヤ

二、青島港開放問題

(イ) 出入船舶ノ禁止ハ何時頃解除ス可キカ

(ロ) 又其制限ヲ為ストシテ其範圍如何

五 青島開城及軍政施行一件 五二四

左記ノ一項ヲ別紙六、及七、ノ間ニ挿入シ七以下ヲ順次繰下クルコト

一、涉外事項處理ノ為外務省ヨリ吏員若干ヲ派遣シ獨立第十八師團司令部（獨立第十八師團凱旋後ハ臨時青島守備軍司令部）ノ下ニ屬セシム

註 別紙トハ右陸軍省案ヲ云フ

〔附記二〕

青島ニ於ケル海軍施設

一、青島領収ノ上ハ臨時青島要港部ヲ置キ臨時青島防備隊ヲ附屬セシメ附近海岸海面ノ警備、海面ノ掃海、戰利艦船ノ所理等ヲ掌ラシム（註 要港部ハ修理工場、知港事、病室ヲ含ム）

二、臨時青島要港部司令官ハ港則ヲ定メ港務ヲ所理ス

三、前二号ノ事項ハ臨時青島要港部開庁ニ至ル迄ハ第二艦隊司令長官之ヲ所理ス

四、臨時青島要港部ニハ警備ノ為メ軍艦二三隻水雷艦隊凡ソ二隊其他雜役船ヲ附屬ス

五、海面ノ掃海及陸上ノ整理ヲ了ル迄ハ官用船舶及陸海軍大臣又ハ其ノ地方ヲ管轄スル陸軍長官、海軍指揮官ノ

（三記註外欄）

(イ) 船舶ニ對スル課税、貨物ニ對スル課税等ノ問題及ヒ税関問題

(ロ) 從來ノ税関役員問題殊ニ税関使用人問題

三、私有財産ノ還附

支那大臣名士ノ動産不動産ニ對シ特ニ注意ヲ払ヒ好意ヲ表スル必要ナキカ

四、山東鐵道ニ關スル問題

(イ) 何人ノ手ニテ運轉ス可キカ、軍憲ヨリ滿鉄其他ノ会社ニ委任ス可キカ又ハ軍隊ヲ中心トシ臨時従業員ヲ使用ス可キカ

(ロ) 附屬鉸山採掘問題

(ハ) 警備問題

一、一定ノ時期ニ守備兵ヲ撤ス可キヤ否ヤ

二、支那巡警ノ線路停車場ノ警備ヲ如何ニ決定ス可キカ

(ニ) 一般乗車及貨物輸送ヲ許可スルトスレハ津浦鐵道トノ連絡ニ關スル協定（臨時）ヲ為スヲ要ス可シ右ノ手續其他從來ノ慣行及協定研究

五、其他占領中研究ス可キ諸問題

(イ) 他日租借地ヲ還附シ之カ代價トシテ專管居留地ヲ要

（五記註外欄）

（四記註外欄）

（二記註外欄）

（一記註外欄）

求スル場合アリトスレハ其地点地域等ヲ予メ行政、軍事通商其他各方面ヨリ研究調査シ置クコト

(d) 占領地内(租借地内外ニ亘リ)ノ利源并ニ地質ノ調査(礦山等)及測図

(e) 此際支那ヲシテ外人居住ノ為ニ開放セシム可キ都市ヲ日本人發展ノ見地ヨリ調査シ置クコト(已開都市中專管居留地ヲ設クヘキ地方ヲモ併セ調査ノコト)

(f) 龍口―濰州線、芝罘―龍口線、高密徐州、濟南道口線等ノ予定線經過地域ヲ实地踏査セシメ置クコト

(g) 占領地以外山東省ヲ中心トセル地方ノ礦山等ノ利源并水路其他交通系ノ調査

(h) 青島經營ノ根本方針ノ研究  
一、大連トノ競争即チ勢力範圍ノ問題  
附 自由港トスヘキヤ否ヤ

二、津浦鐵道ト山東鐵道トノ干係

(i) 津浦鐵道北段(独逸ノ資本技師ニ依リ經營セラレ居ル天津徐州間)ニ於ケル独逸勢力ニ対スル方針

(j) 濟南、濰州等ノ地ニ正金銀行ノ出張所ヲ設ケ軍票整理ニ当ラシムルコト  
青島ニハ開戦前同銀行ノ出張所アリタリ

土ニ於ケル軍ノ權力ノ諸条約ハ之カ適用ヲ受クルモノト解ス可シ即チ

(一) 行政、占領地ノ安寧秩序ヲ維持スル目的ヲ以テスル一切ノ手段

(i) 占領者ハ行政ノ為從來ノ官吏ヲ使用スルコトヲ得可シ從テ支那人タル下級吏員ノ使用如何ノ問題ヲ生ス可シ

(ii) 租税、賦課金(通過税)ハ成ル可ク現行賦課規則ニ依リ徵收スルヲ要ス(陸戰法規第四十八條)

(iii) 軍又ハ占領地ノ行政上ノ需要ニ応スルノ為ニハ右以外ノ取立金ヲモ命スル事ヲ得可シ(同四十九條)

(iv) 立法、成ル可ク現行法規ヲ尊重スヘキモノナレトモ已ムヲ得サレハ現行法規ノ効力ヲ停止シ又ハ新規則ヲ發布スルコトヲ得可シ

(v) 司法、司法行為ハ民事刑事トモ其本国ノ名義ニ依リ在来ノ法衙ヲシテ在来ノ法律ニ依リテ行ハシムルコトヲ原則トス

附 現ニ青島ニ在ル外人囚徒ノ処分ハ如何  
二、租借地以外ノ占領地ニ於ケル軍政

(j) 濟南、濰州等ノ地ニ本邦郵便局ノ設置

濰州ニ於ケル独逸郵便局開設ニ関シ独支間ニ協定アリタル管ナリ

(欄外註記)(通商局ノ意見ナリ)  
一、「從來独逸ハ日本人ニ対シ法權ヲ行ヘリ」

二、「入市ニ付独逸人ヲ一般外國人ト同様ニ取扱フヘキカ」

三、「自由港区域問題」

四、「元居留民ノ財産、土地家屋所有權(或ハ永借權)ヲ如何ニスベキヤ独逸船又ハ日本船ノ陸揚セシ荷物ノ処分」

五、「軍政終了後本邦警察官ヲシテ警備ニ当ラシムル案ハ如何、若シ研究ノ価値アリトスレハ之カ為予メ準備ヲナシ置ク必要ナキヤ」

参考ノ部  
一、租借地ニ於ケル軍政

其範圍、日露戦後ノ際關東州(即チ露國ノ租借地)占領地ノ施政ニ関シ大本營ニ於テ決定シタル方針ハ從來露國ノ施行シ来レル所ヲ超越セサル範圍内ニ於テ我權力ヲ行使スルニアリ租借地ハ事實上獨國ノ領土ト見做シテ取扱ヒ得キヲ以テ海牙条約陸戰法規中ノ第三款「敵國ノ領

(一記註外欄)

中立國タル支那カ其領土ノ一部ヲ交戰地トシテ承認セル事實ハ其地域内ニテ作戰動作并ニ其必然の結果ヲ行フノ自由ヲ認メタルモノト看做スヘキモノナリ即チ占領者カ軍ノ須要ヲ充タシ且占領地安寧秩序ヲ維持上必要ノ行為ヲ為スコトノ默認ハ已ニ領土ノ一部ヲ交戰地トナスノ承認中ニ包含セラレ居ルモノト謂フ可シ(尤モ此場合ハ海牙陸戰法規ノ適用ナキ特殊ノ例ニシテ我權力行使ノ範圍ハ支那ノ默認ニ基クモノナルカ故ニ(一)別ニ日支間ノ明示ノ合意アレハ伸縮シ得可ク(二)疑アルトキハ狭ク解釈セサル可ラス

(欄外註記)(通商局ノ意見ナリ)  
一、「青島ヨリ独逸ノ公私關係ヲ驅逐スルハ戰爭ノ主眼ナルヲ忘ルベカラズ」

二、「独逸ノ法規ハ一切廃止スルヲ要ス」

三、「敵國內ノ占領地ト敵國カ外國ニ於テ有スル租借地ノ占領地トハ必シモ同一視スルヲ要セズ」



ニ至リシ英国ノ意志ハ頗ル怪訝ニ堪ヘサル所ニ有之候申迄  
モナク青島開城ノ今日依然彼軍隊ヲ留ムルハ将来ニ於ケ  
ル軍政施行上徒ニ事端ヲ紛糾セシムルニ過キスシテ全然有  
害無意義ノ事ト存セラレ候ニ付此辺御考顧相煩ハシ度意見  
ニ御座候

右御參考迄此段申進候 敬具

十一月十四日

福田 少将

小池政務局長 閣下

五二九 十一月十六日 在本邦英国大使ヨリ  
加藤外務大臣宛

青島ニ於ケル英国軍ノ処理ニ関シ日本政府ノ意

向問合ノ件

附屬書 十一月十五日附英国外務大臣ヨリ在本邦回国  
大使宛電報写

November 16, 1914  
British Embassy,  
Tokio.

Dear Excellency  
I beg to send you a copy of a telegram which I

五三〇 十一月十七日 加藤外務大臣ヨリ  
岡陸軍大臣宛

青島ニ於ケル英国軍ノ一部残留ニ関シ意向問合  
ノ件

政機密送第一七一号

本件ニ関シ十一月十六日在本邦英国大使ヨリ別紙写ノ通り  
同大使宛英国外務大臣来電写ヲ添ヘ本件ニ対スル帝国政府  
ノ意嚮承知致度旨申越ノ次第有之候ニ付当方ヨリハ帝国政  
府ニ於テハ青島及其附近ニ於ケル秩序安寧ヲ十分保持スル  
ニ足ルヘキ兵力ヲ同地方ニ残留セシムル意嚮ナルヲ以テ同  
地方守備ノ任務ハ全然之ヲ帝国軍憲ノ手ニ一任セラルルコ  
トト相成ルニ於テハ實際上一層便宜ナリト思考スル旨ノ趣  
旨ヲ以テ回答方取計度考ニ有之候処右回答振ニ対シ貴方御  
異存ノ有無承知致度候間事件ノ性質上特ニ至急御詮議ノ上  
何分ノ義御回示相煩度此段照会得貴意候也

註 別紙ハ前掲ニ付省略

have received from Sir Edward Grey with reference  
to the disposal of the British forces at Tsingtao,  
and I shall be obliged if Your Excellency will be so  
good as to let me know whether his proposals made  
will be agreeable to his Imperial Government.

Yours sincerely,  
Conyngham Greene

(附屬書)

十一月十五日附英国外務大臣ヨリ在本邦回国大使宛電報写  
Telegram from Sir Edward Grey, London,  
dated Nov: 15th 1914.

The War office propose that General Barnardiston  
with his staff and the British Battalion (South  
Wales Borderers) shall embark at Tsingtau for  
home and that one Company of Sikhs shall be left  
at Kiaochow until the end of the war.  
Please inform the Japanese Government of the  
above and enquire whether this proposal will be  
agreeable to them.  
British Embassy, Tokyo. Nov: 16th 1914.

五三一 十一月十七日 在中国小幡臨時代理公使ヨリ  
加藤外務大臣宛

膠州湾租借地及其附近ニ於ケル中国官民財産保  
全方日本国政府ニ要請ノ件

附屬書 十一月十二日附孫外交総長ヨリ日置公使宛照  
会写

機密第五〇六号 (十一月二十五日接受)

大正三年十一月十七日

在支那

臨時代理公使 小幡 酉 吉(印)  
外務大臣男爵 加藤高明殿

外交総長ヨリ十一月十二日附公文ヲ以テ山東ヨリノ報告ニ  
拠レハ青島ハ既ニ日英聯合軍ヲ以テ完全ニ占領セル趣ノ処  
膠州湾租借地全部並ニ附近各地方ニ於ケル支那官民ノ財産  
ニ対シテハ各交戦国ヨリ尊重保全セラレ度旨曩ニ貴公使ヘ  
声明ニ及ヒ置キタル次第モ有之ニ付今回同租借地力既ニ貴  
国軍隊ニヨリ暫ラク管理ヲ行ハルルコトナリタル以上ハ  
租借地内ニ於ケル支那官民ノ財産並ニ各種ノ権利ハ租借地  
ノ全部力支那ニ還附セラルル前ニ在テハ貴国政府ヨリ軍當  
局ヘ電命シ一律尊重稍モ侵損セラルルカ如キコト無之様取

計ヒアリタキ旨日置公使宛別紙写ノ通り照会致来候御詮議ノ上何分ノ儀御回示相成様致度此段報告申進候也

(附屬書)

十一月十二日附孫外交總長ヨリ日置公使宛照會寫

外交總長孫

爲

照會事迭據山東報告青島已於七日降陥並於十日早十時由日英聯軍完全接收等語查膠澳租借地全部及附近各地方中國官商人民之財產應請各交戰國尊重保全曾於八月三十一日照會

貴公使聲明在案現膠澳租借地既由貴國軍隊暫行管理所有在膠澳租借地之中國官產民產以及各種權利在膠澳全部尚未交還中國之前應請轉電

貴國政府電飭軍官一律尊重毋稍侵損實紉睦誼須至照會者

右 照 會

大日本國欽命駐華全權公使日置

中華民國三年十一月十二日

(右和訳文)(日本外務省作成)

書翰ヲ以テ啓上致候陳者屢山東ヨリノ報告ニ拠ルニ青島ハニ至レルニ付日英兩國ハ出先軍憲ニ対シ膠州灣ヲ支那ニ還附スル迄ノ間同地支那官民ノ財產其他ノ權利ヲ尊重スヘキ様訓令アリ度旨申出タル趣電報ニ接シタル由ヒテ右ニ関シ同大使ハ英國外務大臣ヨリ帝國政府ノ回答振問合スヘキ旨訓令アリタル趣申出タリ就テハ貴官ニ於テ右ノ如キ同文照會ニ接シタル次第ナルヤ事實電報アリ度シ

五三三 十一月二十日 松井外務次官ヨリ  
在本邦英國大使宛

英國軍ノ青島撤退ニ関シ日本政府ノ意向通告ノ件  
November 20th, 1914

My dear Ambassador,

I am desired by Baron Kato to send you the enclosed Aide-Memoire setting forth the reply of the Japanese Government to Sir Edward Grey's enquiry with reference to the proposal of the British War Office regarding the disposal of the British forces at Tsingtao.

Believe me,

Yours sincerely,

(signed) K. Matsui

去七日ニ於テ降陥シ並ニ十日ノ午前十時ニ於テ日英聯合軍ヨリ完全ニ之ヲ接收シタル趣キ按スルニ膠州灣租借地全部及附近ノ各地方ニ於ケル中國官民ノ財產ニ対シテハ各交戰國ノ尊重保全ヲ請ヒ度旨曾テ八月三十一日附ヲ以テ貴國ニ照會シ置キタルカ今般膠州灣租借地カ既ニ貴國軍隊ヨリ暫ク管理セラルルコトナリタル以上ハ膠州灣租借地ニ於ケル中國官民ノ財產及各種ノ權利ハ膠州灣全部カ中國ニ還附セラレサル以前ニ於テハ貴國政府ヨリ軍当局ニ電命シテ一律ニ之ヲ尊重シ聊カモ侵害セラレサル様電報ヲ以テ御転申相成度希望致候此段御照會申進候 敬具

五三二 十一月二十日 加藤外務大臣ヨリ  
在中國小幡臨時代理公使宛  
(電報)

膠州灣租借地ノ中國官民ノ財產其他ノ權利尊重ニ関シ中國外交部ヨリ照會ノ有無問合ノ件

第五六八号

十一月十八日在本邦英國大使ヨリ同大使ハ十一月十三日在支英國公使ヨリ外交部ハ日英兩國公使宛同文照會ヲ以テ膠州灣租借地ハ差当リ日英兩國政府共同軍政ノ下ニ置カラル

(別紙)

Aide-Memoire

With reference to Sir Edward Grey's telegram of November 15th regarding the disposal of the British forces at Tsingtao, which His Excellency the British Ambassador forwarded to the Minister for Foreign Affairs under date November 16th, the Imperial Government intend to leave a garrison sufficient for maintenance of order and security of Kiaochou and its neighbourhood, and they are inclined to think that it would be more convenient for practical purposes, if the task were left in the hands of the Japanese military authorities.

Foreign Office,  
Tokio.

November 20th, 1914.

五三四 十一月二十日 在濟南船津書記官ヨリ  
加藤外務大臣宛

青島陥落ニ対スル当地中國官民ノ態度ニ関シ報告ノ件

機密第二二二号 (十一月三十日接受)

大正三年十一月二十日

在濟南

公使館三等書記官 船津辰一郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明 殿

帝國カ曩ニ日英同盟條約ニ予期セル東亞ノ平和ヲ確保センカ為ニ膠州灣租借地ヲ支那ニ返付スル目的ヲ以テ先ツ之ヲ帝國政府ニ交付スヘキコトヲ独乙國政府ニ要求シ其容レラレザルニ當リテ始メテ兵ヲ動かシテ山東ノ一角ヲ攻伐スルヤ一時当地地方支那官民ハ帝國ノ行動ヲ以テ名実相副ハサルモノナリトナジ内心我ニ対シ不快ノ感ヲ懷キ居リタルニ拘ラス兎モ角帝國ノ措置ハ大体ニ於テ極東ノ平和維持上万止ヲ得サルニ出テタルモノナリトノ信念ヲ有シ將軍巡按使交涉員並ニ民間有力者ノ如キモ表面我ニ対シ諛詞ヲ呈スルノ有様ナリキ然ルニ其後帝國カ武力ニ訴ヘテ濰縣以西ノ山東鐵道ヲ押収シ且独支條約上支那權利ニ屬スル鐵道警察權ヲ蹂躪シテ鐵路巡警ノ驅逐ヲ断行スルニ當リ当地官民ノ態度俄然一變シ今回青島ノ陥落ニ対シモ一人ノ我ニ向テ祝詞ヲ述ベルモノナク現ニ本月七日当地警察庁長ハ小官ヲ始メ重ナル邦人数名ヲ招キ晚餐會ヲ催シタルガ其際当地有力ナル支那官憲多数同席セシモ何レモ青島陥落報道ノ虚

左記

軍令第一号

第一条 占領地ノ秩序ヲ保持シ住民ノ幸福ヲ増進スル為青島及李村ニ軍政署ヲ設ケ軍政ヲ施行ス

軍政管区ハ従前ノ行政区域ニ拠ル

第二条 占領地ニ於ケル在来ノ諸法令ハ軍政施行ノ為特ニ障礙ヲ来ササル限り之ヲ尊重ス

第三条 占領地ニ現在セル住民ニ各旧態ニ復シ其ノ業務ニ従事スヘシ

第四条 本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス

告示

占領地ノ秩序回復スルニ至ル迄各個人ノ青島市街出入ハ日本軍憲ノ許可ヲ得タル場合ノ外嚴禁ス

五三六 十一月二十四日 在中国小幡臨時代理公使ヨリ 小池政務局長宛

山東問題ニ対スル中国及英國側ノ態度ニ関スル件

附記 十一月二十八日受北京公使館附武官ヨリ長谷川參謀總長宛電報寫

山東問題ニ関スル中国言論大要報告ノ件

五 青島開城及軍政施行一件 五三六

突ヲ問ヒタルノミニテ半言隻語タリトモ祝詞ニ類スル挨拶ヲナセシモノナカリシ只僅カニ青島ニ財産ヲ有スル商人カ速ニ同地ニ帰還ノ許可ヲ得ント欲シ利害ノ念ニ動カサレテ当処ニ来リ祝詞ヲ述ヘタルニ止リタルカ如キ又曾テ当方ニ於テ苦心買収シタル大東日報社長葉春暉カ突然背信シテ(十月二十八日付機密第六号参照)新聞社ト關係ヲ絶チタルヲ名トシ暗ニ教育言論兩界ニ排日思想ヲ鼓吹シツ、アルカ如キハ注意スヘキ現象ト謂フヘシ右及報告候 敬具 本信寫送付先 在北京公使 天津總領事

五三五 十一月二十一日 岡陸軍大臣ヨリ 加藤外務大臣宛

青島獨立第十八師團發布ノ軍政ニ関スル軍令及告示通牒ノ件

陸軍省 送達 歐發第一三〇〇号 (十一月二十二接受)

大正三年十一月二十一日

陸軍大臣 岡 市之助(印)

外務大臣男爵 加藤高明 殿

十一月十九日獨立第十八師團長ニ於テ左記軍令及告示ヲ發布致候条及通牒候也

(私信)

大正三年十一月二十四日

北京

小幡 西吉(自署)

本省

小池政務局長 殿

拜啓別紙ハ大臣宛打電可致乎共存候得共日置公使帰朝中ニ付其辺ノ消息ハ已ニ御詳悉ノ事ト存候間公電ヲ以テスルコトハ差控ヘ貴台御参考迄差出候得御一覽ハ幸甚ニ有之候

(別紙)

昨今各方面ヨリノ情報ヲ綜合シ本官ノ推断スル所ニヨレハ山東問題ノ結果ニ就テハ支那政府当局並ニ有力者ハ独逸ノ既得權ハ日本ニ与フルノ止ムヲ得サルヲ略ボ諦メ居リ結局独逸ノ原有セル以上ニ日本カ要求スルコトナキヤ否ヤヲ慮ルモノ、如クニ察セラル、モ兎ニ角山東ニ於ケル我カ将来ノ企圖ヲ破壞抵制スルコトハ四囲ノ情勢ニ顧ミ目下ノ処如何トモシ難キヲ以テ支那トシテハ歐洲戦局ノ終結ヲ俟チ徐ロニ其外交ノ努力ニヨリ可成我要求ヲ局限抵制センコトヲ唯一ノ希望トスルモノノ如ク陸徵祥ハ曩ニ此種ノ進言ヲ袁總統ニ対シ為シタリト伝ヘラレ近來梁士詒一派ノ徒亦如此

口吻ヲ洩ラシ居ル趣ノ情報アルニ顧ミレハ支那政府最後ノ意思モ略ボ忖度スルニ難カラサル可ク尚ホ差当リ歐洲戦局終局ニ至ル迄応急の方針トシテハ英國カ青島攻撃参加出兵セル事態ヲ利用シ機會ノ許ス毎ニ英國ヲ誘致シ我カ計畫ヲ掣肘セントス可キハ逆睹ニ難カラサル処ニシテ現ニ既ニ其鋒銚ヲ現ハシ来レル事例一二ニ止マラサルヲ知ル青島ニ於ケル日英共同軍政ヲ予断シ支那人ノ財産尊重ヲ要求シ来レルカ如キ青島税関ハ日英兩國人ヲ以テ之ヲ組織セントスルノ計畫ナル旨洩ラシ来レルカ如キ(十一月二十日曹汝霖カ本官ヲ訪問シ現奉天稅務使 T. D. Moorhead ヲ青島稅務司ニ現蘇州稅務司黒沢礼吉ヲ副稅務司ニ任命ノ内意ヲ洩ラシ本官ノ強硬ナル警告ニヨリ翌二十一日会见ノ節ニハ之ヲ撤回シ更ラニ黒沢ヲ稅務司ニ他ノ英人ヲ副稅務司ニ任命セントノ意向ヲ洩セル次第也)ハ歴々支那側意思アル処ヲ察知スルニ余アル可シ唯此際最モ注意ス可キハ支那政府ノ此政策ニ對シ当地英公使並ニ關係英國官憲カ果シテ如何様態度ニ出ツ可キヤニ在リ曾テ当地英公使カ山東鐵道処分案トシテ對日本借款鐵道説ヲ考案シ我カ日置公使ニ内示シタルカ如キ若クハ近ク在芝罘英領事カ煙濰鐵道ノ外資敷設ヲ關係支那官憲ニ頻リニ慫慂シタリト云フカ如キ事實ニ照ラス

權要求ヲ為スノ恐アリ加之日本カ兵力ヲ以テ山東ノ独逸軍ヲ一掃セシ結果トシテ該地方ニ於ケル独逸ノ既得權利ヲ繼承スルハ兎ニ角ナレトモ支那カ若シ日本ト何等カノ利益交換手段ニテ青島ヲ己ノ手ニ回收スルカ如キ結果トナルトキハ他日独逸ノ後難恐ルヘシ等ノ顧慮アルヲ以テ青島ハ寧ロ独逸ト同様ニ租借ノ形式ニテ日本ニ領有セシメ置ク方却テ得策ナリト信シ居ルノ傾アリ尤モ或一部ノ論者ハ国防上ノ見地ヨリシテ青島ヲ日本ノ手ニ委シ陸海軍備ヲ常設セシムルトキハ旅順ト相俟ツテ南北ヨリ渤海灣ノ入口ヲ制圧シ為ニ北京ハ著シク危險ノ位置ニ陥ルノ恐レアルヲ以テ假令他ニ代償利權ヲ与ヘテモ青島ハ之ヲ支那ノ手ニ回收シ置クノ有利ナルヲ主張スルモノナキニアラサルモ此意見ハ恐ラク少數ナルヘシト觀察セラル故ニ単ニ青島還附ノ条件トシテ滿蒙ノ利權ヲ獲得スルコトハ不可能ナルヤモ知レス之ヲ要スルニ此際滿蒙其他ニ於ケル我利權要求ヲ充分ニ貫徹スルニハ革命党取締喪家保護等ノ条件ヲ以テ衰ヲ繰縦シ若シ聞カサレハ武力適用其他ノ非常手段ヲ以テ断然タル行動ニ出テサルヘカラス之カ折衝ニ任スル使臣ノ責務ハ頗ル重大ニシテ突ニ困運ノ消長ニ関スルモノト信ス

トキハ我山東經營ニ對スル在支那英國官憲ノ真意ノ果シテ那邊ニアル可キ乎之レ大イニ攻究ヲ要ス可キ次第カトモ思料セラル、ノミナラス当地方面英國側ノ表向一片ノ辭礼ノミヲ信ジテ山東問題ニ對スル英國側ノ真意ト了解スルハ速断ニ失スルノ嫌ナキヤト思考ス

(附記)

十一月廿八日受、北京公使館附武官ヨリ長谷川參謀總長宛電報写

山東問題ニ関スル中国言論大要報告ノ件

支北電第一五五号

目下支那言論界ニ於テ日本ノ武力ヲモ憚ラス山東問題ニ関シ随分我儘ノ議論ヲ為シアルモ袁大總統以下有識者ノ胸中ニハ夙ニ觉悟スル所アルカ如ク即チ今回日本ハ其私ヒタル多大ナル犠牲ノ報酬トシテ利權獲得ヲ要求スルハ必然ニシテ而シテ支那ハ到底之ヲ拒絕スルノ実力ナキヲ以テ或ル程度迄ハ之ヲ讓歩セサルヘカラス而シテ其程度ハ独逸カ從來山東省ニ於テ有セシ權利ノ程度ニ止メ之レ以上決シテ強要スヘカラスト云フニアルカ如シ而シテ青島ハ若シ之ヲ支那ニ還附セシムルトキハ之カ代償トシテ日本ハ更ニ莫大ノ利

五三七 十一月二十六日 軍令陸第八号

青島守備軍司令官設置ノ件

軍令

朕青島地方ニ於ケル占領地ニ青島守備軍司令官ヲ置クノ件ヲ制定シ之カ施行ヲ命ス

御名御璽

大正三年十一月二十六日

陸軍大臣 岡 市之助

軍令陸第八号

青島地方ニ於ケル占領地ニ青島守備軍司令官ヲ置ク

青島守備軍司令官ハ陸軍大將又ハ陸軍中將ヲ以テ之ニ親補シ

天皇ニ直隸シ守備陸軍諸部隊及特ニ指定セラレタル諸機關ヲ統率シ占領地ノ警戒及防備ニ任シ其ノ民政ヲ統轄シ并山東鐵道及之ニ附屬スル鉅山ノ管理經營ニ関スル事業ヲ監督シ且其ノ保護ニ任ス

五三八 十二月二日 神尾青島守備軍司令官ヨリ  
長谷川參謀総長宛(電報)

青島守備軍軍令第一号及告示ノ公布並海關押収

ニ関スル件

報二号 十二月一日

本一日次ノ軍令第一号ヲ公布ス

第一条 占領地ノ軍政ハ自今青島守備軍之ヲ施行ス

第二条 独立第十八師團ニ於テ公布ノ軍令及告示ハ依然

其効力ヲ存続ス

第三条 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

又次ノ告示ヲ公布セリ

貨幣換算相場ヲ公布ノ日ヨリ十二月十日迄ノ通定ム

軍票又ハ円銀一円ニ対シ日本通貨八拾錢

墨銀一円 独逸銀貨二馬克 支那洋元一円

支那銅錢百十八個

日本通貨一円ニ対シ軍票又ハ円銀一円二十五錢 墨銀一

円二十五錢 独逸銀貨二馬克五十錢 支那洋元一円二十

五錢 支那銅錢百四十八個

本一日軍參謀ハ次ノ通告ヲ軍司令部ニ於テ税關副長ニ向ヒ

口頭ニテ行ヘリ

三十一月三十日附松井外務事務次官ヨリ在本

邦英國大使宛返翰写

中国官民ノ財産等ハ出来得ル限り保護スベ

キ旨回答ノ件

政機密送第一二八三号

本件ニ関シ十一月十七日付機密第五〇六号ヲ以テ御報告ノ

趣聞悉右ニ対シテハ別紙甲号ノ通り支那政府ニ回答方可然

御取計相成度尚本件ニ付テハ往電第五六八号ニテ御承知ノ

通り在本邦英國大使ヨリモ別紙乙号写ノ通り帝國政府ノ回

答振問合ノ次第有之タル義ニ付別紙丙号写ノ通同大使ハ及

内報置候問右ニ御承知相成度此段申進候也

(附屬書一)

甲号

膠州灣租借地ノ中国官民財産等保護ニ関スル日

本ノ回答案

以書翰致啓上候陳者膠州灣租借地ニ於ケル貴国官民ノ財産  
及各種ノ権利保護方ニ関シ御照会ノ趣致了承候膠州灣租借  
地駐在ノ帝國軍憲ニ於テハ特ニ御照会ニ接スル迄モナク已  
ニ出来得ル限り貴国官民財産及各種權利ノ保護ニ努メ居レ  
ル次第ニ付右様御承知相成度尤モ軍事行動ノ必要等ヨリ右

大日本青島守備軍司令官神尾中将ハ軍ノ必要ニ依リ海關  
ヲ押収ス 覚書ハ二日交付ノ筈

(記註外欄)

本一日独逸經理官タリシ俘虜三從卒三ヲ沙子口ヨリ乗船セ

シメタリ尚青島ニ残留セル俘虜ハ入院將校十七同下士卒二

百八十六計三百三其他水道器械師二名ナリ水道器械師ハ当

分日本ニ後送スルヲ得ス

(欄外註記)

「税關押収実行ノ日取並覚書ハ予定通り十二月二日交付シ

タルヤ否ヤ參謀本部本庄少佐ニ問合セタルニ本件ニ関シテ

本電報以後何等ノ報告ナキヲ以テ參謀本部ニテハ口頭通告

ノ日ヲ以テ押収実行シ又覚書ハ二日ニ交付シタルモノト解

シ居レリトノ回答ナリ」

五三九 十二月二日 加藤外務大臣ヨリ  
在中国小幡臨時代理公使宛

膠州灣租借地ニ於ケル支那官民ノ財産等保護方

ニ関スル件

附屬書一 右件ニ関スル日本ノ回答案

二 十一月十八日附在本邦英國大使ヨリ松井外

務次官宛書翰写

右件ニ関シ日本ノ回答振問合ノ件

等財産及各種權利ニ及ホスコトアルベキ損害ハ素ヨリ已ム  
ヲ得サル所ニ付此義ハ貴方ニ於テモ御諒知置相成様致度此  
段照覆得貴意候 敬具

(附屬書二)

乙号

十一月十八日附在本邦英國大使ヨリ松井外務次官宛書翰写

日本ノ回答振問合ノ件

British Embassy,

Tokio.

November 18, 1914.

Dear Mr. Matsui,

On November 13, I received a telegram from Sir  
John Jordan informing me that the Wai Wu Pu had  
addressed an identic request to the British and Japa-  
nese Ministers that, in view of the leased territory  
of Kiaochow having temporarily passed under the  
military Control of our two Governments, the latter  
should instruct their Military Authorities there to  
respect all property of Chinese officials and people  
as well as other existing rights pending the return  
of the whole territory to China.

I have now received a telegram from Sir E. Grey desiring me to inquire what reply the Imperial Government propose to return to the request of the Chinese Government. I should be much obliged if you would be so kind as to let me know.

Yours sincerely,  
(Sd.) Conyngham Greene

(附屬書川)

丙号

十一月三十日附松井外務次官ヨリ在本邦英国大使宛返翰等  
中国官民ノ財産等ノ出来得ル限り保護スベキ旨

回答ノ件

My dear Ambassador,

With reference to your note of the 18th inst. and my reply thereto of the 20th, we are now in receipt from our Chargé d'Affaires at Peking of a copy of the identic request in question, and have decided to instruct him to reply to the Chinese Government in the following sense:—

The Imperial Government hope that the Chinese Government will see that the Japanese Military Authorities in the leased territory of Kiaochow have

(別紙)

十二月三日天津軍司令官發岡陸軍大臣宛電報写  
天津機關ノ梁士詒ヨリ探聞シタル所ニヨレハ袁大總統ハ青島問題ニ関シテハ此際日本ニ還附ヲ要求スヘキ時期ニアラサルヲ熟知セルヲ以テ先決問題トシテ旧独逸租借地以外ニ於ケル軍事の施設ノ撤回交戦地域ニ於ケル公私損害賠償ノ要求ニ止メ該問題ノ根本問題ノ根本的解決時機迄ハ当分日本、英国、支那三国間ニ仮取極ヲ協定セントスルノ意ナルカ如シ而シテ其損害ハ全部ヲ通シ六一〇〇余万元、十一月二十六日電報セシ山東人安氏<sup>アン</sup>ヨリ中央部ヘ報告ノ際山東ノ損害総額ハ一〇二万八五三〇余万元ヲ下ラサル見込ナリト  
言ハリ

五四一 十二月二十一日 在濟南林領事ヨリ  
加藤外務大臣宛

我軍ノ山東鐵道警備撤退駐屯軍設置ノ必要ニ関  
シ意見具陳ノ件  
附屬書 警備撤退駐屯軍設置論

機密第一四号

(十二月三十一日接受)

大正三年十二月二十一日

五 青島開城及軍政施行一件 五四一

already been endeavouring, even without the special request of the Chinese Government, to protect, as far as possible, the property and other rights of the Chinese Officials and People. It is also hoped to be understood, however, that the damages on the above mentioned property and other rights, necessarily caused by military operations, are, from the nature of things, unavoidable.

Believe me,  
Yours sincerely,  
(signed) K. Matsui

五四〇 十二月十六日 岡陸軍大臣ヨリ  
加藤外務大臣宛

青島問題ニ関スル袁大總統ノ意嚮内報ノ件

陸軍省 送達 欧発第一五三五号 (十二月十七日接受)

大正三年十二月十六日

陸軍大臣 岡 市之助(印)  
外務大臣男爵 加藤高明 殿

青島問題ニ関シ袁大總統ノ意嚮ヲ探知シタル別紙支那駐屯軍司令官電報写御参考迄ニ及内報候也

在濟南

領事 林 久 治 郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明 殿

当地方ニ於ケル上下支那人ノ本邦ニ対スル感情甚タ好マシカラサル次第ハ既ニ御承知ノ通りナルガ今後ノ我山東經營ヲ完フスルニハ出来得ル丈彼等ノ対日感情ヲ融和セシムル必要有之候処其一策トシテ別紙ノ通り我軍ノ山東鐵道警備撤退駐屯軍設置ニ関スル卑見概要御参考迄差進候間御査閱相成度此段申進候 敬具  
写 送 付 先 日 置 公 使

(附屬書)

別 紙

警備撤退駐屯軍設置論

一、現在山東人ノ対日感情及之ヲ緩和スルノ  
必要

客月下旬本官濟南着任以来山東省人士ノ我邦ニ対スル感情如何ヲ見ルニ表面格段ノ差別ヲ示ザルモ實際ニ於テ好意ヲ持スルモノ極メテ少ナク我山東發展ガ独乙ノ青島及山東鐵道經營時代ニ比シ支那人ニ取り不利ナルナキヤヲ懸念ス

ルモノ普クシテ殊ニ我軍ノ山東鉄道押収以來頻発スル沿線ノ日支衝突事件ハ毫モ地方人民ヲシテ我国ニ対シ好感ヲ有セシムル理由トナラズ却テ悪感ヲ増加シツツアルガ如ク本月初旬濟南ニ開カレタル東亜和平維持会ノ主張ノ如キ実ニ對本邦山東人民ノ現在感情如何ヲ遺憾ナク示スモノト云フヘク如斯傾向ハ對支国交上及將來ノ我山東經營上最モ憂フヘキ現象ニシテ濟南地方人民ノ對日悪感ヲ融和シテ我山東經營ノ通路ヲ滑カニスルノ肝要ナルハ識者ヲ待テ後知ラサルナリ山東人士ノ對日感情ヲ融和スルノ要果シテ上記ノ如クナリトセバ続イテ生スヘキハ之カ緩和策如何ノ問題ニシテ其策少カラサルヘキモ本官カ今是ニ挙ントスルハ我對支經營上有利ニシテ同時ニ現時局ニ際シ山東官民ノ對日感情ヲ緩和スルノ功少ナカラサルヘント信スルモノニシテ我軍ノ山東鉄道警備ヲ撤廢シテ単ニ駐屯軍ト為スノ最モ得策ナルヲ主張スルモノナルガ以下左ニ其要ヲ論述セントス

## 二、日独開戦前ノ山東鉄道警備

本年晚夏日独開戦シ我軍山東鉄道ヲ押収スル迄ノ該鉄道警備ハ濟南警察庁長之ヲ管理シ独乙ノ膠州灣租借地内ヲ別ニシ全線ヲ濟南張店間張店坊子間坊子膠州間ノ三区ニ分チ各署長一名ヲ置キ濟南警察庁長ニ直屬シテ警備ヲナセルモノ目下山東鉄道ノ我守備隊ハ濟南、濰縣、坊子、高密、膠州ニ各一個大隊青島ニ二個大隊合計八個大隊ヲ有スルガ濰縣以西ニハ僅カニ一個大隊ヲ有スルノミナルヲ以テ線路ノ延長ニ比シ守備稍稀薄ナルヲ免レズ

## 四、山東鉄道敷地内ノ日支衝突事件頻発ト其

## 日支国交ニ及ホス影響

本年十月中旬ヨリ山東鉄道敷地内ニ在ル支那巡警ヲ追払ヒ原則トシテハ我軍ニ於テ鉄道ノ絶対守備ヲ司ルコトトナレルガ濰縣以西ノ例ヲ見ルニ鐵道事故開戦前ニ比シ頗ル多キガ如ク此等ハ我軍ニ對スル地方人民ノ悪感ヨリ生スルモノニシテ該鐵道押収當時ニ於テハ独乙側ノ煽動モ之アリタルヘキモ支那鐵路巡警ノ追払ト我警備ノ実行実ニ地方人民ノ悪感ヲ生セシメタル主因ナリト云フヘシ蓋シ山東鐵道押収以前ニアリテハ鐵道ノ守備ハ全ク支那巡警之ニ当リタル為メ言語ノ不通等ヨリ生スル誤解モナク又我軍カ現在実行シ居ルカ如キ敵酷(支那人ニ取り)ナル警戒モナク從テ地方人民ニ今日ノ如ク不便ヲ感セシムルコトナカリシガ我軍之カ警備ニ当ルニ至テハ該鐵道敷地内ニハ絶対ニ支那政府主權ノ執行ヲ排斥シ嚴重ナル軍律下ニ置キシ為メ支那人ハ從來ノ慣習ヲ破ラレ頗ル不便ヲ感シ或ハ故意ニ或ハ知ラス

ニシテ巡警ノ數合計七百乃至八百ノ間ニアリ一々年総經費約十二三萬元ハ山東省政府ノ負担ニシテ独乙政府ハ別ニ之ニ拘ハルコトナカリシモ濟南警察庁ニ總巡ノ名義ヲ以テ一人ノ独乙人ヲ傭聘セシメ居タルカ該独乙人ハ實際ニ於テハ警察庁長以上ノ権力ヲ振ヒ居タルカ如シト云フ独乙ハ素ト試験的ニ山東鐵道高密以東ニ独乙兵ヲ配備シテ自ラ鐵道守備ヲナセルモ高密以西ニ比シ却テ事故故クシテ利少ナキヲ見租借地以外ハ全部之ヲ撤退シテ總テ守備ヲ支那政府ニ依頼シ該政府ノ顔ヲ立ツルト同時ニ責任ヲ負ハンメ且自國ノ經費ヲ減少セシメタルガ其後ノ成績ハ鐵道事故減少シテ良果ヲ得タルカ如シ

## 三、山東鐵道我軍押収後ノ警備

九月下旬山東鐵道押収後十月中旬ヨリ該鐵道ノ守備ハ我軍自ラ之ニ當ルコトトナリ濰縣以東ハ純然タル交戰地域ナルヲ以テ勿論言ヲ俟タズ濰縣以西ニ於テモ一個大隊ノ兵ヲ以テ守備ニ當リシガ濰縣以西ニ於テハ線路ノ延長ニ比シ兵數ノ少ナキト實際上ノ便宜トニヨリ地方ニ依テハ停車場敷地内ニ主義トシテハ支那巡警ノ存在ヲ認メサルモ事實ニ於テハ之ヲ容レテ多數支那人乗降客ノ取締ニ便ヲ得ツアルモノアル状態ナリ

シテ我警備区域内ニ入り違警ノ罪ヲ犯スモノ少カラズ加之彼我言語ノ不通ヨリ生スル誤解ハ更ニ我警備兵ト地方人民ヤ支那巡警トノ衝突ヲ増加セシメ鐵道敷地内ニ於ケル彼我ノ小事故ハ殆ンド連日頻発ノ状態ナリ

斯ノ如キ小事故頻発ニ際シ我鐵道守備隊ニ於テハ實際上微細ナル事件ハ多ク之ヲ支那側ニ引渡シツツアルモ原則トシテ我軍律処分主義ヲ採リ居ル為メ間々発砲致死セシムル場合等アリ支那官憲ニ於テハ其真意ハ兎ニ角現今ノ状況ヨリ推シ只管我軍トノ衝突ヲ恐ルルニヤ事件發生ノ都度頗ル穩カナル態度ヲ持シ相当ニ理由ノアル場合ト雖モ抗議ヲ提出スル等ノ事ヲ為サズ寧ロ懇願的ニ弥縫手段ヲ採ルノ有様ナルガ此等ハ実ニ中央政府ヨリノ命令トシテ是ニ出ツルモノニシテ一般官民ハ其内心ニ於テ少カラズ悪感ヲ抱キツツアルヲ明瞭ニ觀取スルヲ得ベシ

今ヤ我國ガ独乙ニ代リテ山東經營ニ當ラントスルニ際シ山東省地方人士ノ我國ニ對スル感情如何ガ極メテ重大ナルハ云フヲ待タザル処ニシテ彼等ガ好感ヲ有スル場合ト悪感ヲ持スル場合ニ於ケル我經營ノ難易ニ少カラズ影響アルハ勿論ニシテ此際何等我國ニ不要ナル手段ヲ以テ支那人ノ感情ヲ害スルガ如キハ殊ニ慎マザルヘカラス目下支那政府及一

般ノ人民ニ悪感ヲ持セシメツツアル我軍ノ山東鉄道警備ノ如キ之ニ代フルニ支那官民ノ感情ヲ融和シ同時ニ我對支絃營上ニ有利ナル策ナキヤハ識者ノ深ク講究スヘキ処ニシテ本官カ我軍ノ山東警備撤廢駐屯軍設置ヲ論スルモ亦実ニ是ニ出ツルナリ

五、我警備隊ヲ撤廢シテ駐屯軍トナスノ利害

本年十月中旬我軍ガ支那ノ山東鐵路巡警ニ代リ鉄道警備ニ當リテ以来彼我ノ衝突事故ヲ頻発シ山東地方支那人上下ノ感情ヲ害スルコト果シテ前述ノ如クナリトセバ之ニ代フルニ該地方人民ノ感情ヲ和クルト同時ニ彼等ニ充分我威力ヲ示スノ良策ナキヤ本官ハ我對支絃營上目下我軍ノ實行シツツアル山東鉄道警備ヲ撤廢シ山東駐屯軍ヲ編成シテ鉄道沿線ノ要地ニ分屯セシメ一面支那ノ鐵道守備ヲ認メテ其躰面ヲ維持スルト同時ニ他ノ一面ニ於テハ警備ノ為メ分散シツツアル我兵ヲ集中屯營セシメテ支那官民ニ對シ威力ヲ増加スルノ我國ニ取り極メテ有利ニシテ且ツ刻下ノ肝要事ナルヲ信ス我軍ノ警備ヲ撤シテ駐屯軍ヲ設クルノ利益ハ其数多カルベキモ主ナルモノヲ挙クレバ先ツ第一ニ之ニ依リ支那政府從來ノ體面ヲ維持スルヲ得セシメ同時ニ地方人民ノ感情ヲ融和スルノ利アリ蓋シ日独開戰前独乙ノ山東鐵道經

兵ヲ分屯セシメ雜務ヲ理ムルヲ以テ部隊的演習ノ機會ト暇ト土地ト有セズ且ツハ一個所ニ駐屯スル兵数少ナキヲ以テ駐屯軍トシテ多数ノ兵ノ在ル場合ニ比シ支那人ニ對スル威敵自ラ少カラサルヲ得ズ若シ夫レ一朝有事ノ日ニ遭遇スルコトアラバ各停車場ニ二十名三十名宛分屯セシムルト平常ヨリ要地ニ集中シ置クノ利害識者ヲ待タズシテ知ルベク警備制度ニ比シ駐屯軍制度ノ我ニ有利ナルヤ疑ヲ容レザルナリ

六、實行期間問題

我軍ノ山東鐵道警備ヲ撤廢シテ駐屯軍トナスノ利益前述ノ如クナリトセバ其實施期如何及駐屯軍ノ配置如何ハ次ニ起ルヘキ問題ナルガ後者ノ研究ハ暫ラク之ヲ軍事当局ニ讓リ實施期如何ヲ考フルニ警備撤廢駐屯軍設置ノ利益大ナリトテ今直ニ漫然之ヲ實施センカ事大主義ニ狎レ居ル支那官民ハ却テ更ニ駐屯軍撤廢ヲ要求シ来ルヤ必然ナルヲ以テ之カ實行ニハ適當ナル時機ノ到来ヲ待タサルヘカラス思フニ我軍ノ山東鐵道警備ハ支那政府ノ最モ苦痛トスル処ナルモ今後時日ノ経過ニ從ヒ彼ノ我ニ要求シ来ルモノハ必スヤ独乙租借地外交戰地帯ノ撤廢ト同時ニ同地域ニ於ケル我軍ノ撤退ナラント察セララルル処刻下ノ狀況ニ於テ全然之ヲ認諾

當當時ニアリテ鐵路警備ハ支那政府ノ權利ニ屬セシガ我軍ノ押取後ハ此權利ヲ奪取シテ該鐵路敷地内ニ支那主權ノ行使ヲ許ササル為メ支那側ヨリ見ルトキハ日本ハ山東ニ於テ恰モ独乙以上ノ權利ヲ要望シ歐洲戰爭ヲ機トシテ支那ニ對スル特別ノ野心ヲ滿サントスルニハアラザルカトノ懸念ヲ抱クハ無理カラヌ処ニシテ主權侵害ノ一事既ニ支那上下ノ感情ヲ害スルコト頗ル大ナルモノアリ加之我軍ノ警備實行ハ從來ノ支那人慣習ニ比シ敵酷ニ過キ且ツハ言語不通等ノ為ニ沿線ニ於ケル支那人ノ不便ヲ感スルコト少カラズ此際警備ヲ撤廢シテ単ニ駐屯軍トナス時ハ從來保持シ来リタル支那ノ警備權ヲ認メ一般人民ニモ不便ヲ感セシムルコトナキヲ以テ之ニ依リ支那ハ旧來ノ體面ヲ維持スルコトヲ得且ツ不便ヲ感スルコトナク我ハ一般ニ支那人ノ感情ヲ融和スルヲ得同時ニ多少ノ經費ヲ節スルヲ得ルノ利益アリ第二ノ主ナル利益トシテハ軍事ニ亘リ門外漢立論ノ果シテ正鵠ヲ得タルヤヲ知ラサレトモ卑見ニ依レバ警備撤廢駐屯軍設置ハ平時ニ於テハ軍隊ノ教練軍ノ威力増大等ニ於テ又有事ノ日ニ於テハ軍ノ活動ヲ敏活ニシ兵力ヲ有効ナラシムルニ於テ利益頗ル大ナルモノアルヲ見ル蓋シ現在ノ如ク我軍警備ニ当ルニ於テハ各停車場毎ニ極小ナル敷地ニ少数ノ

スヘカラザルハ勿論ナルガ之ヲ機會トシ我警備隊ヲ撤廢シテ支那政府ノ顔ヲ立テ同時ニ山東駐屯軍制度ノ基礎ヲ固ムルヲ以テ刻下ノ對支政策上極メテ有利ナルモノト思考ス

五四二 十二月二十三日 在中国日置公使ヨリ 加藤外務大臣宛(電報)

山東出征軍ノ引揚等ニ関シ問合ノ件

第八八〇号

山東出征軍ハ目下内地ニ引揚中ナル趣ノ処既ニ引揚了シタル数、今後引揚クヘキ数、及期日、竝時局終了迄殘留セシムヘキ数、本使含迄ニ電報ヲ請フ又龍口ヨリ掖県平度ヲ經テ高密ニ到ル兵站線ハ其筋ニテ何時迄之ヲ維持シ置ク積ナルヤ其理由ト共ニ承知シ度キニ付是亦電報アリタシ

五四三 十二月二十四日 加藤外務大臣ヨリ 岡陸軍大臣宛

山東出征軍引揚其他ニ関シ問合ノ件

政機密送第二一四号

本件ニ関シ今般在支日置公使ヨリ別紙写ノ通問合越候処同

公使へ回訓ノ都合モ有之候ニ付右ニ関スル詳細ノ事実理由等至急承知致度此段及照会候也

本信写送付先 參謀総長

註 別紙在支日置公使來電第八八〇号前掲

五四四 十二月二十五日 岡陸軍大臣ヨリ  
加藤外務大臣宛

青島施政方針規定通牒ノ件

附屬書 青島施政方針

陸軍省 送達 歐発第一六三四号 (十二月二十六日接受)

陸軍大臣男爵 岡 市之助(印)

外務大臣男爵 加藤高明 殿

別冊ノ通青島施政方針ヲ定メ青島守備軍司令官へ達置候条及通牒候也

(附屬書)

極秘

(大正三年十二月二十一日)

青島施政方針

独逸ハ青島ヲ絶東政策ノ根拠トシ巧妙ナル計画ト雄大ナル

ヲ重シシ滿ニ利ヲ取メ確実ニ業ヲ起スヲ得セシムルヲ要ス

以上ハ単ニ大綱ヲ掲クルニ過キス其實行ニ方リテハ諸種ノ事件發生スヘシ宜シク國際ノ通則ト軍政ノ本旨トニ稽ヘ怨讐ヲ中外ニ貽サス利権ヲ朝夕ニ伸張シ以テ帝國ノ威ト軍政ノ美トヲ宣揚センコトヲ期スヘシ

五四五 十二月二十九日 岡陸軍大臣ヨリ  
加藤外務大臣宛

山東出征軍引揚其他ニ関シ回答ノ件

陸軍省 送達 歐発第一六九二号 (十二月二十九日接受)

大正三年十二月二十九日

陸軍大臣 岡 市之助(印)

外務大臣男爵 加藤高明 殿

十二月二十四日附政機密送第二二四号ヲ以テ御照会相成候山東出征軍引揚其ノ他ニ関シ問合ノ件左記ノ通及回答候也

規模トヲ以テ經營スルコト效ニ十有七年百般ノ施設漸ク成熟シ其勢力ハ山東全省ヲ風靡シ延テ中央支那ニ及フ今ヤ幸ニ我カ戦勝ニ頼リ此等ノ施設經營ハ悉ク我カ有ニ歸セリト雖將來ニ於ケル經綸ハ我カ国力發展ニ影響スルコト極メテ大ナリ故ニ之カ統治ニ任スルモノハ能ク内外ノ状勢ヲ考量シ殊ニ左記ノ要項ヲ体シ我カ軍政ノ目的ヲ達成スルヲ要ス

一、皇謨ヲ恢宏シ國是ヲ遂行スルヲ以テ為政ノ要諦トス  
二、施設ハ其形式ニ於テ獨國従前ノ要領ヲ採ルヲ以テ便宜トス然レトモ其精神ニ至リテハ悉ク獨國ノ潛勢ヲ掃蕩シ其利権ヲ收襲シ我カ对支政策ノ貫徹、商工經濟ノ發展ニ資ス

三、我カ統治ニ帰順スル民族ハ其何レノ國籍ニ屬スルト何レノ宗教ヲ奉スルトヲ問ハス普ク之ヲ撫恤保護シテ帝國ノ恩威ニ悅服セシムヘシ

四、支那官民ニ対シテハ信義ヲ旨トシ誠意誠心ヲ以テ之ヲ指導啓迪スルニ努メ又我カ統治下ニ在ル清朝ノ遺民及ヒ支那国事犯人ハ之ヲ遇スル公平無私ナルヘシ而シテ帝國ノ威敵ハ秋毫モ之ヲ冒スヲ容サス

五、青島地方ニ移住スル帝國臣民ヲ督勵シ公法ニ準シ道義

左記

- 一、凱旋輸送ハ十二月二十五日ヲ以テ完了ス
- 二、今後更ニ引揚ク可キ部遂ナシ
- 三、今後引統キ残置スヘキ部遂ハ歩兵八大隊、騎兵、野砲兵、工兵各一中隊、重砲兵一大隊、鉄道聯隊、電信隊、兵器廠、病院等ニテ兵数約七千
- 四、龍口ヨリ高密ニ至ル兵站線撤去ノ時期ハ明言シ難シ之レ我軍唯一ノ通信線保護上絶対ニ必要ナルノミナラス今後ノ変局如何ニ依リテハ再ヒ作戰上重要任務ヲ負担スヘキヲ以テナリ
- 五、守備軍ノ現兵力ハ上記ノ如シト雖現ニ支那人ノ鉄道及電信妨害事故頻發シ動モスレハ守備ノ薄弱ヲ感スル情況ナルヲ以テ將來或ハ若干ノ兵力増加ヲ必要トスルコトナキヲ保セス

註 大正四年一月四日加藤外務大臣ヨリ在中國日置公使ニ右陸軍側ノ回答ヲ電報セリ